

令和5年度 西東京市立上向台小学校 第4回 学校運営協議会

令和5年11月24日

議事録

上向台小学校運営協議会（要点記録）
日時：令和5年11月24日（金）10：30～12：00 場所：上向台小学校 ランチルーム 出席：6名 学校関係者：6名 欠席：3名
委員10名中7名の出席により本会議は成立
（1）会長挨拶 校長挨拶
<p>○挨拶要旨</p> <p>校長</p> <p>私からは、10月、11月の学校便り、8月の終わりに出た働き方改革に関する「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」の概要版、それからつい先週文部科学省から出ております「不登校の児童生徒への支援の充実について」の通知をお配りしました。</p> <p>10月の学校便りは、体育発表会について書きました。</p> <p>保護者の皆様からは、昔ながらの運動会を求める声もあるかと思いますが、そもそも体育発表会が、学校の教育活動の中でどのような位置付けなのかについて、述べています。</p> <p>学校の教育活動を実施する上で基準となる学習指導要領の本体には運動会の記述はありません。特別活動の解説に例示として運動会という文言は登場し、学校便りには下線で示しておりますが、実施に至るまでの指導の過程を大切にすることや、体育科の学習内容と連携を図るなど時間の配当に留意すること、児童自身のものとして実施すること、いたずらに勝負にこだわることなく、また一部の児童の活動にならないように配慮することなどが示されております。</p> <p>そこで、今回は、体育科の学習内容と関連した内容であることや、児童自身のものとして実施できるようにすることを教員にはお話をしました。</p> <p>特に、「運動が苦手な児童に対して体育嫌いを生まない工夫」や「一人一人の子どもを主語にする体育発表会を！」とも話をしました。</p> <p>また、行事について精選していくことも学習指導要領には示されているのですが、さらに2枚おめくりいただき、今年の8月に働き方改革について出された「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」の通知にも、取組の具体策として、1（2）に「学校行事について精選・重点化、準備の簡素化等」も示されております。</p> <p>全国的に教師の精神疾患で離職するなどの報道も多くあり、働き方改革をどのように実施していくのか、この辺りについては、学校でもできることを直ちに行うという考え方の下、取り組んでいかななくてはならないと考えております。</p> <p>こちらの裏面には、実は平成31年度には既に示されている「学校・教師が担う業務に係る3分類」の表がございます。</p> <p>左側の「基本的には学校以外が担うべき業務」として、「①登下校に関する対応」がございます。</p> <p>実は、Kさん中心に上小ガーディアンズが南門の自転車道路の登下校の見守りをしていただいておりますが、さらに民生・児童委員の方、それからサルビア会の方々にもお話をしたところ、見守りをしてくださっています。</p> <p>このようなことを相談し、地域の方々がすぐに実践していただけること、大変嬉しく思っております。</p> <p>サルビア会さんには、展覧会の作品も出品していただきました。</p> <p>同じ左側の部分「④地域ボランティアとの連絡・調整」もKさん中心に、体育発表会では一中の生徒がたくさんお手伝いしてくれるなど、様々連絡・調整を図ってくださっています。ありがとうございます。</p> <p>本日は、この後、上小の学力・体力について、それから保健関係について、教員から説明をさせていただきます。</p> <p>次年度に向けて、様々な計画を創っていく時期でもありますので、ぜひ皆様からもさらに上小をよりよくするための方策やアイディア等をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

(2)児童の学力・体力・健康等についての実態の報告

○学力について

上向台小学校の児童は、体育発表会に向けて教室で休み時間にも一生懸命に練習するなど素直で前向きな児童が多いです。

「全国学力・学習状況調査」では、「自分によいところがあると思いますか」という質問に、肯定的な回答が東京都の項目を5ポイント以上上回っています。同じように、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」という質問に、「当てはまる」と回答した児童が、東京都平均よりも10ポイント以上上回っています。一方で、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に対しては、東京都の平均を下回っています。

このようなことから、上小の児童は、自分のことを大切にしたり、思いやりたり多様性を認めたりする力が育っている一方で、コロナ禍であっても地域行事への参加率が低いことが分かりました。

続いて校内研究の取り組みです。

本校では、素直な上小の全ての児童の可能性を引き出し、確かな学力を付けるために、研究主題を「自分の考えをもつ児童の育成～指導の個別化を通して～」に設定し、校内研究に取り組んでいます。「指導の個別化」とは、子供一人一人の特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等を柔軟に提供することなどです。これまでの「みんな一緒に」、「同じことを」、「同じ方法で」の学びからの脱却は、わたしたち教員の意識を変えることも必要で、研修会を開き、学び合っています。

第5学年の社会の授業では、これからの食料生産について考えました。食料自給率が低いことを知った児童は、これからの食料生産についてそれぞれが異なる内容を主体的に調べました。例えば、児童A「食生活が洋食に変化しているから、米をもっと食べたほうがいいと思う。」、児童B「日本の食料生産は輸入に頼っているが、国産の食品を選ぶことで環境にも優しくなることが分かった。」、児童C「食料自給率が下がると、昆虫食というものもあるらしい。」などです。

教師が「今日は輸入量について学習しましょう。」と言って決められた学習課題で学ぶより、自分で学習計画を立てた本単元は、テストでもこれまでの社会の単元より平均点が高い結果となりました。

○体力について

体力テスト 結果の分析について説明します。

まず、合計得点についてです。

男子の1、2、3学年の合計得点は、東京都平均とほぼ同等であり、4、5、6学年は、平均より低い水準にあります。

女子の1、2学年の合計得点は、東京都平均より低い水準にあります。3、4、5、6学年は、平均とほぼ同等です。

種目別に特徴的な点を説明します。

男女の握力、女子の上体起こしは、全ての学年で平均か平均以上です。（資料1・2）

一方、反復横跳び、立ち幅跳びの数値が全校的に低いです。（資料3・4）

今後の取組についてですが

反復横跳びに関わる敏捷性につきましては、低・中学年では、「体を移動する運動」において「速さ・リズム・方向などを変えて、這う、歩く、走る、跳ぶ、はねる」などの動き、高学年では、「巧みな動きを高める運動」において「タイミングよく動くこと、リズムカルに動くこと」等、体づくり運動の学習を中心に、敏捷性に意識を置いた指導を行っていきます。

立ち幅跳びに関わる跳躍力につきましては、低学年「跳の運動遊び」、中学年「幅跳び」、「高跳び」、高学年「走り幅跳び」などの運動の学習を中心に、跳躍力に意識を置いた指導を行っていきます。

ソフトボール投げについては、今年も地域協力者のYさんを中心とした体育協会の方に5年生へボール投げについて2日間にわたって指導していただきました。昨年度に比べ、特に男子のボール投げの結果が向上しています。教えていただいたことを5年生だけでなく全校の体育の時間に指導していきます。

全体を通して、ランニング旬間、縄跳び旬間などの取組について、昨年度まで休み時間に実施していたものを朝の時間に移行しました。体育発表会を含め、すべての体育的活動において、児童に運動をさせて体力向上を図るのではなく、児童に体を動かす楽しさを味わわせることにより体力向上を図るとともに、生涯スポーツへとつなげていきたいと考えています。

○健康について

子どもたちの心と体の健康について、まず配布した資料1枚目ですが、今年度の定期健康診断の結果として、東京都に提出したものです。両面で男子・女子別になっております。

令和3年度の学校保健統計と照らし合わせて御説明します。

学校保健統計とは昭和23年度から続く、5歳～17歳までの子どもたちの定期健康診断の全国統計になります。コロナ禍に於いて定期健康診断の実施時期が6月末までではなく、翌年の3月まで延長された関係で、統計の集計が遅くなっているようで、今回指標にする令和3年度の全国データは、考察を経て令和4年12月に発行されたものです。

はじめに健康状態として、疾病率が高い順に説明すると全国で視力1.0未満は41.4%ですが、本校はそれよりも低く36.6%程でした。

むし歯のある者は、全国で31.9%ですが、本校は29.8%でした。むし歯は2極化しており、全くむし歯のない児童もいれば、一人で何本もとという子もいます。本数が多く処置もしていない子は、家庭教育力の低さや生活のゆとりのなさだと想像できるのですが、もう一方で生活にゆとりがあるが故の砂糖コントロールが上手くいかないのでは？と想像できる子どもたちの様子も見られました。

鼻・副鼻腔疾患のある者が、全国で12.1%となっており、本校では55.1%と突出しております。かなり多いことに驚かれると思います。この理由として考えられることは、この統計調査のアレルギー部分に関しては、全国統計なので地域差が生じやすい事とアレルギー性鼻炎、結膜炎に関しての統計には注意書きがあり、健診日に必ずしもアレルギー症状が出ているわけではないので、調査等で学校が把握している人数も計上することになっています。この学校が把握しているという認識に養護教諭や自治体での誤差が生じていると考えられます。西東京市では、4月に各校保健個人カードで毎年保健調査を実施しております。そこで、「ここ一年以内にアレルギー性鼻炎の症状があった人は、丸をつけてください。」という質問項目があります。そこで、健診で指摘されなかった児童も計上することになり、その調査を取っていない自治体と大きく差が出ることになります。また養護教諭自身もその注意書きを読まずに検診日の指摘人数だけで報告している人もいるだろうと推察されます。

学校保健統計で10%以上の疾病異常が計上されている人数がいるのは、この3項目になります。

次に資料②を御覧ください。今、御説明した定期健康診断で疾病や異常の疑いがあり、保護者にお知らせをした人数とそのお返事が養護教諭まで届き、受診を確認した人数の3年間の様子です。

視力に関しては、片目だけでも1.0が見えていない様子だったお子さんには、全員通知を出しています。ただし、眼鏡を使用していて、眼鏡をかけた視力が両眼ともに1.0が見えているお子さんに関しては、眼科医の元で、視力の調整が上手くいっていると判断しているので、受診を促すお知らせ用紙は出していません。それでも視力に関しても御家庭の関心度は様々です。「子どもも視力が0.7あれば、学校の勉強で困ることはあまりないので、自覚がないことや昨年指摘されたけれど病院で診てもらったら、1.0見えたから今年は行かなくて大丈夫」だとか、「眼鏡をかけていて、定期的に受診しているからよい」とか、「逆に眼科に行く眼鏡を作成すると言われるから子ども自身が病院へ行きたがらない」とかです。また、毎年すごく時間が経ってから用紙を提出される方もいます。この資料を作成している側から届いているような状態です。病院との方向性決定までに経過観察と言われたのでそれが終わるまで提出しないなどもあるようです。

耳鼻科に関しては、今年度から急に疾病異常が増えたように感じられると思いますが、昨年度までは、コロナ禍のため耳のみの検診でした。今年度は、耳鼻咽喉全てを診ていただきましたので、これが本来の本校の姿と考えられます。耳鼻科の受診に関しては、水泳指導もありますので、プールの前に報告書を提出するよう促していますが、お知らせを出した中で、特に耳に関しては、耳垢栓塞と耳垢があり、耳垢栓塞の方は、耳垢が詰まっており、除去が必要な事と耳垢により耳の奥の鼓膜の状態の確認ができていけませんので、必ず追いかけますが、耳垢に関しては、御家庭で処置してくださいとのお知らせなので、除去しましたとのお返事が欲しいところではありますが、担任が子どもに確認して、家の人に耳掃除してもらったらOKとしているので、このような受診確認率となります。

内科は学校保健統計に計上しないような指摘でたくさん通知を出しています。その多くが乾燥肌、姿勢注意です。この2つに関しては、低学年は、「家庭で注意していきます。」「アトピーで通院中です。」「保湿剤を塗っています。」など、病院での記載でなくとも御家庭で記載して提出してくださる方が多いのですが、乾燥肌等は、毎年の事になり、学年が上がるにつれて、提出率が悪くなる傾向があります。

養護教諭として、内科健診結果で非常に気になっていることがあります。

姿勢注意を指摘される子どもが多いことと年々増加していることです。これは、コロナ禍の影響もあるのでは？と個人的には思っています。まず起立姿勢が取れない。コロナ初期は特に密集して整列をすることが一斉に無くなりました。すると、起立する経験も減り、なおかつ、まっすぐという目で確認す

る視標もないという経験不足。また、まっすぐ立つと言う事は子ども自身の体幹コントロール力と自己感覚力等が必要になりますが、運動不足による筋力不足。そして、昨今発達障害のあるお子さんは、そういった自然の活動の中で、自然に発達するはずの身体の使い方の軸となる体幹を築きにくいことも分かっています。そういった児童の増加が、内科健診での脊柱を確認する時にまっすぐ立てない現象が多数発生しているように感じます。この軸ができなければ、鉛筆を正しく持って書く、お箸を正しく持って使うなどの日常動作から運動時のボールを投げる、取る、マット運動をするなどのいろいろな活動において身体を正しく使うことがなかなか上手くできないだろうと予測されます。コロナ禍当初は、突然の学校休業から始まり、学校、公園などからも一時子どもたちの姿が消えました。より一層YouTubeやゲームなどの時間ばかりが増え、外で身体を大きく使う様々な活動で自然に身に付くはずの運動能力に影響を与えていなければよいと感じています。それくらい、内科健診で背骨がまっすぐかどうかをすぐに判断することができない児童が、お知らせを出していない児童も含めて多くなっています。同時に腹式呼吸、胸式呼吸を上手に使えない児童が多くなっていることも校医さんから指摘されるようになりました。こちらでも体幹を鍛えることに関係します。

アレルギーについては、前年の花粉状況の軽重により、多少変動しますが、ほぼ横ばいの罹患率で、減少することはなさそうです。どのようにうまく付き合っていくかと新しい治療薬に期待するところだと思います。

最後に子どもたちの心の方ですが、着任以来、保健室登校、登校渋り、不登校の対応が無かった年はありません。昔から社会的不安が起これば一番影響を受けるのは子どもたちです。子どもなので、心の不安定を上手く言葉にすることはできませんが、保健室のドアを開放し、相談その他で自由に出入りできる状況を見付けると特段用事がないのに入ってくる子どもたちがいます。特に相談や大事な話でもないのに、話の輪に入ってきて私に話し掛けてきます。大人に話を聞いてもらいたがっている子どもたちが多くいることを感じます。

さらに今年度は、1学期末には保健室登校を常時4人抱え、登校を促すために、あれこれと世話を焼き、話し掛け、その子その子に応じて様子を見取り、登校渋りの原因を探り、クラスとのつながりをどう続けていくか探る毎日でした。うち1名は無事クラスに戻れたのですが、2学期は一時6名の子どもが保健室対応となり、けが、インフルエンザや風邪等の発熱疾病、その他の悩み相談などの対応も含めて一人で保健室を切り盛りし、児童委員会の指導を行い、一昨日集会発表までこぎつけました。息つく暇もないほどの保健室ですが、子どもたちの心と体の声に少しでも多く耳を傾けていきたいと思っています。

(3) 質疑応答

委員

スポーツの稼働率が低下しており、市民の約15%は全くスポーツに関心がないという統計もあります。いかにスポーツに関心を持たせることができるか、小学生のうちに体の骨組みを作り、体力をつけさせていくことが大切です。今、西東京市スポーツ推進計画の素案が出ているので、ぜひ御覧ください。

委員

体育発表会では、中学生のボランティアが多くとても良い体育発表会でした。
地域の秋祭りでは、ボードゲームが人気で1日中子供たちが夢中になっていました。

委員

コロナが終わり、児童館で宿題をする児童が多く見られるようになりました。また、体力面では、コロナ禍においては運動ができなくなり、何もない場所で転倒して骨折するなどのけがなどがありました。現在は児童が運動する機会も戻ってきており、学童クラブからのけがの報告が減りました。鬼ごっこをする児童も多く見られるようになりました。

学級閉鎖の際、上向台小学校ではオンライン授業をされていてすばらしいと感じました。

委員

家庭内で遊ぶことが増えており、子供の体力が落ちています。また、市内の公園等では外遊びの禁止事項が増えているので、なかなか運動をすることができません。

校庭開放では、子どもたちに大人が楽しそうな運動を教えることも必要です。

働き方改革として、上小の勤務実態はどうなのかということと、改善に向けて具体的に動いているのでしょうか。子どもを預けているので、先生方が大変なことは分かっています。しっかりと子どもたちに教えることに時間を割いてください。

I T化等、企業でできていることが学校の仕組みとして、取り入れられるとよいです。上小に合わせた具体的なことはできないでしょうか。

生活指導主任

なかなか子どもたちがボールを使って遊べる公園が少ないです。

向台グラウンドも管理方法が変わり自由に使えなくなり、ますます運動する場所が無くなってきています。ボール遊びがしたい場合、子どもたちには小金井公園を紹介しています。

校長

働き方改革に関する学校のI C T化は、市や教育委員会の考え方も大きく関係してくるので、学校単体で行うことには限りがあります。

インターネットにつながるパソコンが職員室に1台しかない状況のため、仕事を効率化するには難しい場面もあります。G I G Aのタブレット端末は教員一人一台ありますが、印刷はできない状況です。

今年度、欠席の連絡やアンケートをタブレット端末で行えるようにしたので、その分、朝の欠席連絡やアンケートの集計が減り、働き方改革につながっています。

委員

体育発表会の中学生ボランティアについては評判も良く、やって良かったと思います。

「地域の行事に参加していますか。」という項目についてのアンケート結果が低くなっていますが、育成会のお祭りには500人くらいが参加しています。育成会のお祭りは地域主催の行事なので、子どもたちは、学校行事と勘違いしているかもしれません。

不登校用に空き教室に人を配置して活用するのも良いと思います。

端末の管理を教員が紙ベースでしている。バーコードがついているのだから、もっとデジタルを活用した管理はできないのでしょうか。

校長

端末の管理、保守関係については、次の端末更新時に予算を付け、教員が行うべき業務とそうでない業務の切り分けを行えるよう、市教委に要望していきたいと考えています。

また、I C T支援員の訪問回数等も増やせるように市教委に要望していきたいと考えています。

11月17日に発表された「不登校の児童生徒への支援の充実について」の通知をお配りしましたが、「校内教育支援センターの設置促進」として予算がついているとともに、「コミュニティスクールや地域学校協働の枠組みを活用することにより、教職員と地域の関係者が連携協働して運営を行うことも考えられる」とあります。

別室支援については、新しく申請していますが、支援を行う人としてぜひ地域の皆さんの力もお借りしたいです。

委員

以前、体力テストの前におやじの会だけでなく、田無高校の生徒に走り方を教えてもらったタイムが向上しました。

田無高校の部活に協力を依頼しても良いのではないのでしょうか。

委員

教員志望の高校生にも良い経験になると思います。

日本語指導が必要な児童はいますか。

副校長

3名います。

週に2時間、日本語指導の先生が来て指導をしています。

本校には、日常生活を送る上で言葉が分からず困ってしまう児童はいませんが、日本語の底上げという形で指導を行っています。

(4)事務連絡
第5回 学校運営協議会 日時 令和6年1月19日(金) 10:30～12:00